

南るもい 水稻技術情報

留萌農業改良普及センター南留萌支所

TEL : (0164) 42-8493 FAX : (0164) 42-4079

HP : <http://www.rumoi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index2.htm>



～登熟期管理について～

◇現在までの気象・生育について◇

7月1日～15日までの気温は、2半旬の最高気温が高かったものの、総じて平年並となりました。また、日照時間は平年の120%と6月から一転して多照となりましたが、降水量は平年の20%程度と少なくなりました。

普及センター調査ほの水稲の生育の遅速は平年並に推移していますが、6月の寡照により十分な茎数の確保が難しい結果となりました。

表1 7月15日現在の水稻生育状況

(留萌農業改良普及センター南留萌支所調査ほより)

	草丈(cm)	葉数(枚)	m ² 当茎数(本/m ²)	遅速
R2	58.7	10.3	437	-1
平年値	60.8	10.3	593	-
(比率)	96.5%	100%	73.7%	-

※品種:ななつぼし

【登熟期の管理ポイント】

≪前半≫～十分に水を！～

- 開花授精後の米粒は、急速に肥大します。出穂後は十分に土壤水分を確保するよう速やかに入水し、浅水管理・間断かんがいを行いましょう。
- 最高気温 29℃、夜間気温 23℃以上の高温が5日以上続くと予報された場合は、かんがい水の掛け流しを行い、水田周辺の気温を下げるようにしましょう。
- ▲ 登熟期前半の高温は、乳白・腹白米などが発生し玄米品質の低下に繋がります！

≪後半≫～乾かし過ぎに注意しましょ！！～

- 登熟後半の土壤水分は、土壤表面に小さな亀裂が入り、足跡がわずかに付く程度（土壤水分60%）にしましょう。
- 土壤表面が乾き過ぎると亀裂が入り、根が切断され吸水力が低下し、登熟不良や白未熟粒（心白等）が発生しやすくなります。収穫の10日前頃までは土壤表面に1cm以上の亀裂が入らないように管理しましょう。
- 落水は、玄米形成がほぼ完了する出穂期後25日目頃の穂かがみ期以降に行うのが原則ですが、ほ場の排水性の状態に合わせ落水しましょう。
 (目安) 排水良好田…出穂後20～25日頃
 排水不良田…排水良好田よりやや早めに落水
- 落水後の水田への入水・排水が出来るように、土壤表面が硬くならないうちに溝切りを行いましょう。